

# 素材を活かす“めっき”の世界 ニーズの変化にも不屈に立ち向かう



多種多様なめっき加工を高い技術力で実現。  
DX導入により、効率化と新たな案件獲得に挑戦。



## 太平化成工業 株式会社

秋田市土崎に本社工場を持つ太平化成工業株式会社。昭和22年に創業し、昭和48年にめっき加工部門を設立した。現在は飯島工場、森吉工場と合わせて3つの拠点を持つ。本社工場と飯島工場では多種多様なめっき処理設備を備えるほか、森吉工場では精密機械部品などの機械加工を行っており、組立まで対応できる。ニーズの変化などの理由から受注が減少する中、課題に立ち向かう代表取締役の金子真也さんにお話を伺った。

代表取締役 かねこ しんや 金子 真也

〒011-0951  
秋田市土崎港相染町字浜ナシ山6-1  
TEL 018-845-0442  
FAX 018-857-0778  
<https://www.taiheikasei.com/>



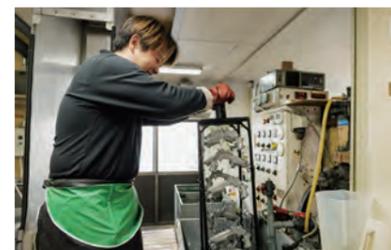
HP



## 小型部品の大量生産や 少量多品種にも対応する

昭和22年、代表取締役の金子真也さんの祖父が創業した太平化成工業株式会社。創業当時は廃油再生事業を行っていた。その後、昭和48年からめっき加工などの表面処理加工の部門が設立され、現在の主力事業となっている。

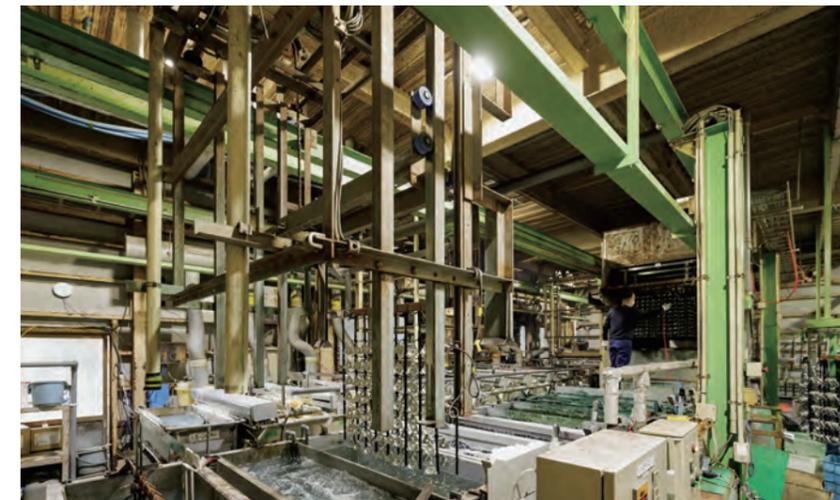
「大きなめっき工場では、特定のめっき加工に特化している場合もありますが、当社では、多種多様なめっき加工を請け負っています。大きなめっき槽を持たない代わりに、さまざまな加工に対応できるような設備を整えています。現在の売上としては8割以上がめっきを始めとした表面処理加工。残りの2割弱が機械加工となっています。主に受注しているのがネジの表面処理加工ですね。全体の13~14%ほどがネジメーカーとの取引になっています」。



ニッケルめっき加工作業の様子。

## 取引先の事業縮小による 受注減少と人材育成という課題

県内にある従来の取引先の事業縮小により、徐々に受注量が減少している。「めっきの需要は減ってはいないはずですが、大口の取引先の工場閉鎖や県外の同業他社との価格競争が激しく、受注機会の確保が一層難しくなっています。積極的に県外の新規取引先の開拓もおこなっておりますが、距離や技術的な難易度が高く簡単ではありません。」



亜鉛めっき専用の工場では大型の機械で防錆処理から洗浄する。繁忙期は24時間体制、それ以外は二交代制で作業を行う。

ません。」と課題について教えてくれた。また、人手不足と技術継承の問題も抱えている。

「現在、従業員は85名。定年は60歳、4月からは65歳に引き上げる予定です。働きたい人は定年後も嘱託として働けるようにしているため、75歳のベテランもいます。彼らの豊富な経験を、若手にどう引き継ぐかが課題だと感じています。当社には特級めっき技能士を始め、資格取得者も多い。彼らの技術を継承し、技術力の維持・向上に努めていきたい。」と、人材の育成に力を入れていく方針だ。

## 効率化によって利益を上げるため デジタル技術の導入に挑戦

人手不足や経費の削減を目指し、金子さんが取り組んでいるのがDX導入だ。昨年度からベンダーと生産管理システムの開発を始めている。

「現在は指示も記録も紙ベースで行っております。DXによって作業効率を上げることはもちろん、生産記録の検索性を上げて品質管理も盤石にしたい。顧客からの問い合わせにもスムーズに対応できるようにしなくてはと考えています。生産工程が複雑で開発が難航しているため、システムの導入は来年度に入ってから予定ですが、AI技術の発達が目覚ましいおかげで良いシステムになりそうです。」と語る。

地道な営業活動を強化している一方で、令和7年にはホームページをリニューアル。ネット広告や加工業者用の比較サイトへの企業情報の掲載を始めたことで、一般顧客や新規案件の獲得も少しずつ増えてきているという。

DX導入により、効率化を図り認知を広げていく。金子さんの挑戦は始まったばかりだ。



めっき加工が完了し、乾燥中の製品。



銅めっきや銀めっきなど多種多様な加工も受注。